

# 令和4年度 教育行政に関する点検評価報告書



小学唱歌「牧場の朝」歌碑 (昭和58年11月27日建立)

令和5年8月  
鏡石町教育委員会

## 目 次

1	趣 旨	1
2	点検評価の対象とする事務事業について	1
3	鏡石町教育行政点検評価（事務事業評価）の構成	2
4	評価方法	3
5	総合評価	4
6	評価結果の公表	4
7	実施スケジュール	4
8	点検評価報告書	5～28
No. 1	適応指導教室運営事業	5
No. 2	理科振興事業	6
No. 3	学力向上支援事業	7
No. 4	元気キッズサポーター派遣事業	8
No. 5	小学校町民プール利用事業	9
No. 6	情報化教育推進事業	10
No. 7	語学指導等外国青年招致事業（児童国際化推進事業含む）	11
No. 8	通学バス乗車券購入補助事業	12
No. 9	教育支援事業	13
No. 10	特別支援教育支援事業	14
No. 11	放射線教育体験事業	15
No. 12	幼稚園子育て支援事業	16
No. 13	育英資金貸付事業	17
No. 14	社会教育関係団体支援事業	18
No. 15	家庭教育学級事業	19
No. 16	青少年健全育成事業	20
No. 17	学校支援地域本部事業	21
No. 18	生涯学習の振興	22
No. 19	社会教育推進事業	23
No. 20	図書館事業	24
No. 21	鏡石駅伝・ロードレース大会《縮小》	25
No. 22	子ども会対抗親善スポーツ大会《中止》	26
No. 23	合型地域スポーツクラブ支援事業 （NPO法人かがみいしスポーツクラブ）	27
No. 24	体育施設管理運営事業	28

## 1 趣旨

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなっています。

鏡石町教育委員会では、令和4年度における主要事務事業に関し点検・評価を行い、教育に関し学識を有する方々で構成された「鏡石町教育行政点検評価委員会」の意見を付して報告書の作成・公表することとしています。

## 2 点検評価の対象とする事務事業について

事業評価する項目は原則として、第6次総合計画の位置づけを基に、令和4年度鏡石町教育委員会(教育課)主要事務事業から、義務的・経常的なもの等除いた事業について点検・評価しました。

### 令和4年度鏡石町教育委員会(教育課)主要事務事業

#### (1) 教育グループ

1	適応指導教室運営事業
2	理科振興事業
3	学力向上支援事業
4	元気キッズサポーター派遣事業
5	小中学校町民プール利用事業
6	情報化教育推進事業
7	語学指導等外国青年招致事業(児童国際化推進事業含む)
8	通学バス乗車券購入補助事業
9	教育支援事業
10	特別支援教育支援事業
11	放射線教育体験事業
12	幼稚園子育て支援事業
13	育英資金貸付事業

#### (義務的・経常的事業)

- ・要保護準要保護児童生徒援助費・特別支援教育就学奨励費援助事業
- ・教育委員会外部評価事業

- ・施設設備の維持管理業務
- ・学校設備備品の整備
- ・学校給食業務委託事業
- ・教材備品等の整備
- ・学校司書配置事業
- ・学校図書整備事業
- ・幼稚園奨励金支給事業

(2) 生涯学習グループ

1	社会教育関係団体支援事業
2	家庭教育学級事業
3	青少年健全育成事業
4	学校支援地域本部事業
5	生涯学習の振興 (いきいき学級・ジョイフルライフ講座・大人の講座「男性専科」)
6	社会教育推進事業(まちづくり講座・単科講座)
7	図書館事業
8	鏡石駅伝・ロードレース大会《縮小》
9	子ども会対抗親善スポーツ大会《中止》
10	総合型地域スポーツクラブ支援事業(NPO法人かがみいしスポーツクラブ)
11	体育施設管理運営事業

(義務的・経常的事業)

- ・成人式
- ・文化講演会
- ・町指定文化財環境整備事業
- ・牧場の朝ふるさと祭り支援事業
- ・社会体育関係団体支援事業(体育協会等)
- ・ふくしま駅伝

### 3 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)の構成

(1) 事業の目的・内容

事業の目的には何のために当該事業を行っているか、事業の内容は目的のためにどのようなことを行っているのか記入してあります。

(2) 実績・成果

点検評価対象年度の活動実績・成果が記入してあります。

(3) 事業費

点検評価対象年度の決算見込額と前年度の決算額が記入してあります。

(4) 課題

対象事業の課題が記入してあります。

(5) 事業の評価・意見

鏡石町教育行政点検評価委員の方々からいただいたご意見と評価が記入してあります。

(6) 今後の方向性

上記の評価結果を踏まえて、今後どのように事業を進めるか選択します。

#### 4 評価方法

「鏡石町教育行政点検評価委員会」で事業について実績・成果などを「必要性」、「有効性」、「効率性」、「達成度」で評価したうえで、事業の各評価項目の点数を基に総合評価のランク付けを行いました。

※新型コロナウイルス感染拡大防止により事業が中止となった場合は評価しない。

評価	評価の視点	点数			
		4	3	2	1
必要性	事務事業は町民ニーズや社会情勢にあっているか 町が事業を行う必要があるか	増加	横ばい	減少	かなり減少
有効性	施策や運営方針、町の総合計画の目的の実現にどの程度寄与しているか	十分寄与	概ね寄与	あまり寄与していない	寄与していない
効率性	コストがかかりすぎているか、業務面等効率的に執行されているか	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
達成度	事務事業の達成状況はどうか	十分できている	できている	あまりできていない	できていない

## 5 総合評価

各評価項目の評価点数を基に、総合評価のランク付けを行います。

ランク	評価点数	内 容
A	16～14	優れた取組が多く、十分成果が上がっている。
B	13～11	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている。
C	10～8	成果が十分上がっておらず、改善の余地が多い。
D	7～	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要。

## 6 評価結果の公表

公表に際しては、事務事業評価表を作成し議会へ報告します。また、評価結果は町民に公表します。

## 7 実施スケジュール

実施時期	内 容
5月～6月上旬	教育委員会による評価作業の実施
6月22日	鏡石町教育行政点検評価委員会第1回会議・委嘱状交付 ・会長及び職務代理者の選出 ・教育行政点検評価内容説明・質疑等
6月28日	委員からの意見徴収・項目ごとに各委員より意見を記入し提出
7月4日	鏡石町教育行政点検評価委員会第2回会議・教育行政点検評価意見の集約
7月10日	委員に対する教育行政点検評価表最終確認
7月26日	教育委員会7月定例会議案提出・議決
8月18日	議会全員協議会へ報告
9月中	町HPで公表

点検評価報告書

No.	1	事業名	適応指導教室運営事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	------------	----	--------

事業目的・内容	<p>不登校状態にある児童生徒に対し、カウンセリングや小集団活動を通し、自主性や社会性を高め学校復帰を支援する「若草教室」の運営に務める。</p> <p>◆名称 「若草教室」                  ◆場所 町保健センター内                  ◆開設 月曜日から金曜日（9：00～15：00）                  ◆内容 自主学习、課題学習（自分にあった教科学習）、体験的学習                  軽運動やゲーム、その他（清掃、反省 等）</p>													
	事業実績・成果	<p>◎不登校状態の児童生徒のカウンセリングや学校復帰を目指すため、相談支援や学習支援を行った。                  ◎指導員：1名配置                  ◎入級児童生徒数                  小学生：0名、中学生2名（3年生） ※（R3、小学生0名、中学生3名）</p> <p>○通級している生徒に対し、学校復帰できるよう相談や学習支援を行った。                  ○通級していた生徒2名は、2人とも中学3年生であったため進路について学校や関係機関と連携を図った。2名については、無事、中学校を卒業し希望する進学先へ進学した。</p>												
事業費		R4（単位：千円）						R3（単位：千円）						
	2,878	国庫支出金				2,665	国庫支出金							
		起債					起債							
		その他					その他							
一般		2,878		一般			2,665							
課題	●若草教室から学校への復帰の壁が高い。													
事業の評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童・生徒が若草教室の利用につながるように、学校と連携が必要である。</li> <li>・学校へ行けない児童・生徒の居場所は必要である。</li> </ul>												
	R4	必要性	4	有効性	4	効率性	4	達成度	4	合計	16	評価	A	
	R3	必要性	4	有効性	4	効率性	4	達成度	3		15		A	
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：継続					

No.	2	事業名	理科振興事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	--------	----	--------

事業目的・内容	<p>新学習指導要領の中では、体験型の理科実験や観察などが重視されており、また、子どもたちの「理科離れ」が問題となっている中で、数多くの実験設備や観察環境が整っている「ムシテックワールド」を利用して、実験や工作など様々なプログラムを体験させる理科教室を実施し、理科授業に対する想像力や思考力・実践力を深める。</p> <p>◆ムシテックワールドで、一小・二小の全校生を対象に理科教室を開催</p>														
	事業実績・成果	<p>◎開催日時及び対象</p> <p>① 11月17日 9:00~11:30 小学4年生 (106人)</p> <p>② 11月18日 9:00~11:30 小学5年生 (119人)</p> <p>③ 11月25日 9:00~11:30 小学6年生 (96人)</p> <p>④ 11月30日 9:00~11:30 小学3年生 (129人)</p> <p>⑤ 12月2日 9:00~11:30 小学1年生 (114人)</p> <p>⑥ 12月6日 9:00~11:30 小学2年生 (127人)</p> <p>⑦ 1月11日 9:00~11:30 小学6年生 (27人)</p> <p>※二小の6年生については、新型コロナウイルス感染拡大により学級閉鎖となったため、別日⑦にて実施。</p> <p>○学校では得られない貴重な実験等を行い、指導員の説明に耳を傾け楽しみながら理科を学ぶことができています。</p>													
事業費		R4 (単位:千円)						R3 (単位:千円)							
	1,174	国庫支出金		起債		その他	1,174	1,138	国庫支出金		起債		その他		一般
課題	<p>●子どもたちが、理科に関して興味・関心を持つことが重要であり、学校においても継続して理科に対して興味・関心を持ってもらえるような授業を展開していく必要がある。</p>														
事業の評価	意見	<p>・学校外での体験は、児童が楽しみながらできることであり、有意義である。</p> <p>・理科に興味・関心を持つきっかけとして地域資源の活用は大切である。</p>													
		R4	必要性	4	有効性	4	効率性	4	達成度	4	合計	16	評価	A	
R3	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	A				
方今向後性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性 : 継続						



No.	3	事業名	学力向上支援事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	----------	----	--------

事業目的・内容	<p>町独自の「標準学力調査」を実施し、児童生徒の学力の経年変化や課題傾向を分析し、児童生徒の基礎学力向上に取り組む。 また、教職員のレベルアップ事業として、教職員の研修会、町教育研究会を実施し、教職員の資質の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆全国学力・学習状況調査 小6・中3を対象に実施 教科：国語・算数・理科・質問紙（アンケート）</li> <li>◆ふくしま学力調査 小4～6、中1～2を対象に実施 教科：国語・算数・数学・質問紙（アンケート）</li> <li>◆町標準学力調査 小2～5、中1～3を対象に実施 教科：小2～3→国語・算数 小4～5→社会・理科 小6→社会・理科・英語 中学校→社会・理科・英語</li> <li>◆教職員レベルアップ研修</li> <li>◆中学生の学習意欲を高め、学力向上につなげる。 英語・数学・漢字の各種検定の受験料の一部（2,000円）を補助</li> </ul>
---------	--

事業実績・成果	<p>◎全国学力・学習状況調査：240人（小学生：116人、中学生124人） ◎ふくしま学力調査：547人（小学生338人、中学生209人） ◎町標準学力調査：904人（小学生582人、中学生322人） ◎教職員レベルアップ研修：3回（参加人数134人）「タブレット研修」 ◎各種検定受検者数：128名（受検率35.9%）（対象者：中学校全校生357名） ※延べ人数：漢字125名、数学39名、英語48名</p> <p>○各校において、各学力調査の分析結果を基にした課題の共通理解を図り、学校での指導内容・方法の工夫や改善に取り組んだ。 ○児童生徒の学力状況を確認し、学力向上に繋がるよう指導内容に生かすことができた。</p>
---------	---

事業費	R4（単位：千円）				R3（単位：千円）			
	3,164	国庫支出金			1,547	国庫支出金		
		起債				起債		
		その他				その他		
一般			3,164	一般			1,547	

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個別最適化な学びに向けての教職員の資質向上を図る必要がある。</li> <li>●中学生の各種検定の受検については、受検を促すような体制づくりが必要である。</li> </ul>
----	---

事業の評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査結果の分析と改善策・実践検証を継続し、全教職員が情報を共有するための大切な事業である。</li> <li>・各種検定試験を多くの生徒に受検してもらえよう教員の働きかけが必要である。</li> </ul>											
-------	----	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
R3	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3		14		A

方今 向後 性の	1. 重点化	②. 継続	3. 改善	4. 縮小	前年度の方向性： 継続
----------------	--------	-------	-------	-------	-------------

No.	4	事業名	元気キッズサポーター派遣事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	----------------	----	--------

事業目的・内容	<p>子どもの運動に対する関心や意欲を高めながら体力向上を図るため、体育の授業等を支援する「元気キッズサポーター」を派遣する ※令和3年度から回数を増やして実施</p> <p>◆町立小学校2校へ「元気キッズサポーター」を派遣 ①体育の授業での先生方の指導支援 ②放課後や長期休業中での特設クラブ等の支援 ※1回あたり、1～2名派遣</p>
---------	---

事業実績・成果	<p>◎実施回数・人数 ・一小50回 支援対象延べ3,864人 ※(R3:50回 3,709人) ・二小20回 支援対象延べ802人 ※(R3:20回 755人)</p> <p>◎内容 ・一小：陸上・水泳・持久走・縄跳び・マット運動・バスケットボール・サッカー・走り高跳び・跳び箱 等 ・二小：持久走・サッカー・ダンス・跳び箱・バスケットボール・マット運動 等</p> <p>○かがみいしスポーツクラブのスタッフが、学校と連携して体育の授業等で指導をサポートしており、一人一人の体力の状況を考慮して、指導を行った結果、運動に関する興味・楽しさ・意欲を高めることができています。</p>
---------	--

事業費	R4 (単位：千円)				R3 (単位：千円)			
	847	国庫支出金			847	国庫支出金		
		起債				起債		
		その他				その他		
一般			847	一般			847	

課題	<p>●この事業を通して少しずつではあるが体力向上につながってきている。しかし、児童の体力は平均には満たしていないため、運動への関心を更に高め、指導できるような体制づくりも検討する必要がある。</p>
----	--

事業の意見	<p>・運動への関心が高まるような、楽しいプログラムを検討する必要がある。 ・子ども達がスポーツに慣れ親しみ、楽しさを実感し継続してスポーツを続けられるような指導をしてほしい。</p>
-------	--

事業の評価	R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
	R3	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14		A

方今 向後 性の	1. 重点化	②. 継続	3. 改善	4. 縮小	前年度の方向性： 継続
----------------	--------	-------	-------	-------	-------------

No.	5	事業名	小中学校町民プール利用事業				担当	教育グループ					
事業目的・内容	<p>町立小中学校の学校プール施設の老朽化に伴い、町民プール「すいすい」を利用して水泳の授業を実施するとともに、夏休みの長期休業中の利用について、5回まで無料として体力向上を図る。</p> <p>◆水泳授業を実施 ◆夏休みの利用を5回まで無料</p>												
	事業実績・成果	<p>◎実施回数等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一小 授業18回(各学年3回)バス43台 ※(R3:1~3年中止、4~6年各2回 バス12台)</li> <li>・二小 授業12回(各学年4回)バス24台 ※(R3:全学年各3回 バス9台)</li> <li>・中学校 授業4回(1・2年のみ各2回)バス8台 ※(R3:全学年各3回 バス18台)</li> </ul> <p>◎夏休み利用 延べ994人利用(小学生) ※(R3:1,285人) 198,800円(@200×994人)</p> <p>○町民プール「すいすい」を利用することで、天候に左右されずに水質のよい環境で授業を実施でき、計画的に授業を実施できた。 ○教職員のプールの維持管理の負担軽減につながっている。</p>											
事業費		R4(単位:千円)					R3(単位:千円)						
	3,664	国庫支出金				2,059	国庫支出金						
		起債					起債						
		その他					その他						
一般		3,664		一般			2,059						
課題	<p>●プールまでの移動時間、低学年の着替えなどに時間を要する。そのため、集中して授業を実施しており、授業時間の調整が必要となる。</p>												
事業の評価	意見	<p>・プール維持の経費を考慮した場合、適当な措置である。 ・長期休業中の利用については、低学年の児童が安心して町民プールへいける様に考えてほしい。</p>											
	R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
	R3	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3	合計	13		B
方今向後性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性 : 継続				

No.	6	事業名	情報化教育推進事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	-----------	----	--------

事業目的・内容	<p>新しい時代の教育に必要な創造性を育む教育を実現するため、GIGAスクール構想事業により、整備したタブレット端末等の有効活用や学校ICTを活用した授業の展開を図る。次代を拓く子どもたちに公正で最適な学びを提供するため、ICT環境を整備し、学校教育の情報化を推進する。</p> <p>また、児童生徒に多様な学習環境を提供できるよう、学習用ICT端末を最大限に活用できる効果的かつ効率的な環境づくりに努める。</p>
---------	--

事業実績・成果	<p>◎ICT機器を活用した学習活動として、デジタル教科書授業、インターネット学習などを実施。</p> <p>◎情報モラル教育について、講師を招き講演会を実施、AI型ドリルを引き続き活用。</p> <p>◎整備実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン220台（一小82台、二小58台、中学校80台）プリンター、複合機、教育ネット接続、電子黒板3台（各校1台）、デジタルテレビ60台（一小：28台、二小11台、中学校18台、幼稚園2台、公民館1台）、タブレット端末一人1台</li> </ul> <p>◎授業時数</p> <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; border:none;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット授業</li> <li>一 小：1， 745時間 ※（R3:1,482時間）</li> <li>二 小：1， 624時間 ※（R3:1,185時間）</li> <li>中学校：1， 929時間 ※（R3:871時間）</li> </ul> </td> <td style="width:50%; border:none;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン授業</li> <li>45時間 ※（R3:69時間）</li> <li>2時間 ※（R3:115時間）</li> <li>170時間 ※（R3:306時間）</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>○必要な情報や進路に関する情報等をタブレットで調べたりする学習活動を行うことで、情報活用力の向上を図れている。</p> <p>○AI型ドリルの導入により個に応じた学習を行うことで基礎学力の定着に繋がっている。</p> <p>○グループ活動時などで、リアルタイムに情報を共有することができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット授業</li> <li>一 小：1， 745時間 ※（R3:1,482時間）</li> <li>二 小：1， 624時間 ※（R3:1,185時間）</li> <li>中学校：1， 929時間 ※（R3:871時間）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン授業</li> <li>45時間 ※（R3:69時間）</li> <li>2時間 ※（R3:115時間）</li> <li>170時間 ※（R3:306時間）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット授業</li> <li>一 小：1， 745時間 ※（R3:1,482時間）</li> <li>二 小：1， 624時間 ※（R3:1,185時間）</li> <li>中学校：1， 929時間 ※（R3:871時間）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン授業</li> <li>45時間 ※（R3:69時間）</li> <li>2時間 ※（R3:115時間）</li> <li>170時間 ※（R3:306時間）</li> </ul>		

事業費	R4（単位：千円）			R3（単位：千円）		
	15,968	国庫支出金	315	13,599	国庫支出金	
		起債			起債	
		その他			その他	
一般		15,653	一般		13,599	

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員のICT機器活用能力に差があるため、環境整備に合わせICT研修などを実施したり、プログラミング教育などの研修等も行っていく必要がある。</li> <li>●情報モラル教育を引き続き実施していく必要がある。</li> </ul>
----	--

事業の評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化社会では、タブレットなど情報機器を使えることは当然求められることから、義務教育時代から慣れ親しむ環境は重要である。</li> <li>・教職員の資質向上と子ども達の思考力・判断力・表現力を養っていくことが同時に必要である。</li> </ul>											
	R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	4	合計	15	評価	A
R3	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	4	合計	15	A		

方今向後性の	①. 重点化	2. 継続	3. 改善	4. 縮小	前年度の方向性： 重点化
--------	--------	-------	-------	-------	--------------

No.	7	事業名	語学指導外国青年招致事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	--------------	----	--------

事業目的・内容	<p>語学指導助手を1名招致し、中学生の英語の語学力向上を図る。 国際交流活動で幼児英語教育を実施し、幼少期から英語に触れる機会を作る。 小学校に外国人講師を派遣し、日常生活の中から外国語に親しむ機会を創設し児童の国際感覚を養う。</p> <p>◆中学校 外国語授業・会話の補助、英語弁論大会への協力、外国語教員に対する現職教育への補助</p> <p>◆国際交流活動 鏡石幼稚園や鏡石保育所を訪問し、幼児向け英語教育を実施</p> <p>◆小学校 小学校での英語会話の補助、外国語教育用の教材作成の補助、国際理解関係事業の補助、特別活動等への協力、教員研修活動等の補助</p>
---------	--

事業実績・成果	<p>◎鏡石中学校へ語学指導助手を1名派遣 ◎町で直接雇用した外国人講師を町立小学校へ派遣 一小：週4日勤務 二小：週1日勤務 ◎小・中9年間の継続性を目指した英語力の一層の充実を図った</p> <p>◎活動</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・ 保育所外国語活動</td> <td style="text-align: center;">19回</td> <td style="text-align: center;">※ (R3:20回)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・ 幼稚園外国語活動</td> <td style="text-align: center;">20回</td> <td style="text-align: center;">※ (R3:21回)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・ 一小外国語活動</td> <td style="text-align: center;">462時数</td> <td style="text-align: center;">※ (R3:464時数)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・ 二小外国語活動</td> <td style="text-align: center;">304時数</td> <td style="text-align: center;">※ (R3:118時数)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・ 中学校英語教育</td> <td style="text-align: center;">490時数</td> <td style="text-align: center;">※ (R3:525時数)</td> </tr> </table> <p>○外国人講師・語学指導助手と直接、接することにより、英語をより身近に感じることができ、親しみを持てるようになってきている。</p>	・ 保育所外国語活動	19回	※ (R3:20回)	・ 幼稚園外国語活動	20回	※ (R3:21回)	・ 一小外国語活動	462時数	※ (R3:464時数)	・ 二小外国語活動	304時数	※ (R3:118時数)	・ 中学校英語教育	490時数	※ (R3:525時数)
・ 保育所外国語活動	19回	※ (R3:20回)														
・ 幼稚園外国語活動	20回	※ (R3:21回)														
・ 一小外国語活動	462時数	※ (R3:464時数)														
・ 二小外国語活動	304時数	※ (R3:118時数)														
・ 中学校英語教育	490時数	※ (R3:525時数)														

事業費	R4 (単位：千円)				R3 (単位：千円)			
	9,391	国庫支出金			9,340	国庫支出金		
		起債				起債		
		その他				その他		
一般		9,391		一般		9,340		

課題	<p>●幼少期から英語に直接、触れる機会を増やしていくことが必要であるため、公立の幼稚園のみならず、今後は私立幼稚園についても、幼児向け英語教育ができるような環境整備が必要だと思われる。</p>
----	---

事業の評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話せる英語教科の推進を進めてほしい。</li> <li>・ 幼少期より英語に親しんでいくことは大切である。</li> <li>・ 語学力や国際感覚を身に付けていく場であり必要である。</li> </ul>											
	R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
	R3	必要性	4	有効性	4	効率性	4	達成度	3		15		A

方今 向後 性の	1. 重点化	②. 継続	3. 改善	4. 縮小	前年度の方向性： 重点化
----------------	--------	-------	-------	-------	--------------

No.	8	事業名	通学バス乗車券購入補助事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	---------------	----	--------

事業目的・内容	<p>遠隔地（2km以上）から通学する低学年の児童に対して、通学バス乗車券購入補助金を交付し安全の確保と低学年児童の通学の利便を図る。</p> <p>※令和4年度からは、第一小学校学区も対象として実施</p> <p>◆補助金対象者（1年～3年） 旧二小学区から二小へバスを利用して通学している低学年の児童 一小へバスを利用して通学している低学年の児童</p> <p>◆補助金額 学期ごとに定期券を購入し、実績に基づき補助金を交付</p>												
	事業実績・成果	<p>◎実績人数 ・一小：1年0名 2年3名 3年4名 計 7名 ・二小：1年5名 2年2名 3年3名 計 10名 ※（R3:8名）</p> <p>◎補助金額 ・一小 補助金額 295千円 ・二小 補助金額 238千円</p> <p>○令和4年度からは、一小的遠距離通学している児童も対象として拡大した。 ○遠距離通学する低学年の児童安全の確保と低学年児童の通学の利便性が図られている。</p>											
事業費		R4（単位：千円）						R3（単位：千円）					
	533	国庫支出金					220	国庫支出金					
		起債						起債					
		その他						その他					
		一般		533				一般		220			
課題	<p>●路線バスの経路外の遠距離通学している児童や、バスの運行時間の関係によりバス通学できない児童もいるため、コミュニティバス、スクールバス、路線バス会社への要望なども含め、様々な視点で検討していく必要がある。</p>												
事業の評価	意見	<p>・バス運行との兼ね合いと、二小の歴史、公平性の担保など難しいが、近年の保護者の動向を注視しなければならない（保護者送迎が多い）。</p> <p>・効果的な個々の対応が難しいと思う。</p>											
		R4	必要性	2	有効性	3	効率性	3	達成度	2	合計	10	評価
	R3	必要性	2	有効性	3	効率性	3	達成度	2	合計	10	評価	C
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：継続				

No.	9	事業名	教育支援事業	担当	教育グループ
-----	---	-----	--------	----	--------

事業目的・内容	<p>授業内容により、外部の専門的知識や技術を持つ講師を活用し、担任とチームティーチング方式で授業を展開することで児童生徒の興味や関心を喚起し、特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>◆専門的な知識や技術を持つ外部講師を招き、児童・生徒が興味・関心を持って、意欲的に学べる授業を実施  ◆中学校の部活動において、専門性の高い外部講師（部活動指導員）を配置し生徒の技術の向上と教職員の負担軽減を図り、教職員の働き方改革につなげる。</p>
---------	---

事業実績・成果	<p>◎実施内容・回数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一 小：水泳教室 9回 音楽教室 1回 珠算教室 1回 計 11回※ (R3:20回)</li> <li>・二 小：水泳教室 11回 命の授業 2回 計 13回※ (R3:11回)</li> <li>・中学校：命の授業 2回 計 2回※ (R3:5回)</li> <li>・幼稚園：音楽教室 5回 よさこい教室 4回 水泳教室 2回 計 11回※ (R3:13回)</li> </ul> <p>○専門家から直接学ぶことにより、より多くの専門的分野に興味・関心を持つことができている。</p> <p>◎県補助金を活用し部活動指導員を配置（女子バレーボール）し、教職員の負担軽減と生徒の技術の向上が図れた。</p>
---------	---

事業費	R4（単位：千円）			R3（単位：千円）		
	833	国庫支出金	375	517	国庫支出金	
		起 債			起 債	
		そ の 他			そ の 他	
	一 般	458		一 般	517	

課題	<p>●専門的な話を聞き将来につながるよう、また、児童・生徒が興味・関心を持てるような内容の授業を展開していく必要がある。</p>
----	---

事業の評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心を持てるようなプログラムの展開が必要である。</li> <li>・より専門的な視点からの指導を受けることができている。</li> <li>・外部講師を招いてやることで、取り組む姿勢や関心度が増してくるので良い事業である。</li> </ul>											
	R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
	R3	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3		13		B

方今 向後 性の	1. 重点化	②. 継続	3. 改善	4. 縮小	前年度の方向性： 継続
----------------	--------	-------	-------	-------	-------------

No.	10	事業名	特別支援教育支援事業	担当	教育グループ
-----	----	-----	------------	----	--------

事業目的・内容	<p>小中学校において、特別な支援を必要とする児童生徒に対し、適切できめ細かな教育的支援、集団生活、学校生活の支援を行うため、支援員を配置し、特別支援教育の充実を図る。</p> <p>◆特別支援学級へ入級している児童のみならず、配慮を必要とする児童生徒に対し、困り感や不安感をやわらげ、学校生活を送れるように支援する。</p> <p>◆自らできることを増やし、疎外感を感じないように楽しく学校生活を送れるように支援する。</p>
---------	--

事業実績・成果	<p>◎支援員配置実績          一小： 5名    二小： 3名    中学校： 2名    幼稚園： 2名    計 12名</p> <p>◎支援学級人数          一小： 17名    二小： 10名    中学校： 4名    幼稚園： 4名          ※ (R3 14名    10名    4名    7名)</p> <p>○個に応じた適切な支援が行われており、学級・学校運営の円滑化、更には特別支援教育の充実が図れている。</p>
---------	--

事業費	R4 (単位：千円)				R3 (単位：千円)			
	21,637	国庫支出金			21,469	国庫支出金		
		起 債				起 債		
		そ の 他				そ の 他		
一 般			21,637	一 般			21,469	

課題	<p>●特別な配慮を必要とする児童・生徒が増加傾向にあり、また、障害の状態が多様化しているなど、個々の状況に応じた支援が求められているため、必要に応じた支援員の配置をする必要がある。</p>
----	---

事業の意見	<p>・ 支援を要する児童生徒に応じて、支援員を増やして対応すべきである。</p> <p>・ 支援を要する児童生徒の増加に伴い支援員の増員、予算の増加が求められる。</p>
-------	--

事業の評価	R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
	R3	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3		13		B

方今 向後 性の	1. 重点化	②. 継続	3. 改善	4. 縮小	前年度の方向性： 継続
----------------	--------	-------	-------	-------	-------------



No.	11	事業名	放射線教育体験事業	担当	教育グループ
-----	----	-----	-----------	----	--------

事業目的・内容	<p>東日本大震災・原子力災害伝承館で放射線に関する正しい知識を習得するとともに、東日本大震災を振り返ることで、環境回復や復興に向けた取組について学習し、生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活をおくるために、自ら考え行動できる力を育成する。</p> <p>◆中学1年生を対象に東日本大震災・原子力災害伝承館で体験学習を実施</p>
---------	--

事業実績・成果	<p>◎東日本大震災・原子力災害伝承館で体験学習を実施した。          実施日：令和4年9月14日（水）          参加者：89名          体験内容：伝承館見学・フィールドワーク</p> <p>○目に見えない放射線とはどんなものなのか知識を深め、自ら被災地へ訪れることで未曾有の複合災害に理解を深め、福島環境回復や復興に向けた取組を学ぶことができています。</p>
---------	---

事業費	R4（単位：千円）				R3（単位：千円）			
	265	国庫支出金			142	国庫支出金		
		起債				起債		
		その他				その他		
一般			265	一般			142	

課題	<p>●今後は、震災当時に生まれていない生徒が体験することとなる。そのため、東日本大震災がどういったものだったのか？など事前に学習する機会を作ることも必要。</p>
----	--

事業の意見	<p>・日ごろから災害などについて学習する体験が必要である。</p>
-------	------------------------------------

事業の評価	R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
	R3	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3		14		A

方今 向後 性の	1. 重点化	②. 継続	3. 改善	4. 縮小	前年度の方向性：継続
----------------	--------	-------	-------	-------	------------

No.	12	事業名	幼稚園子育て支援事業	担当	教育グループ
-----	----	-----	------------	----	--------

事業目的・内容	<p>子育て支援として、3歳児保育及び預かり保育（一時預かり・常時預かり）を実施する。</p> <p>◆3歳児保育の実施 ◆預かり保育の実施</p>													
	事業実績・成果	<p>◎3歳児保育：19名 ※（R3:18名） ◎預かり保育 常時預かり：24名 ※子育て支援制度利用であるため無償 ※（R3:28名） 一時預かり 延べ87名（1回500円） ※（R3:90名）</p> <p>※幼稚園講師2名を雇用し配置（会計年度任用職員）</p> <p>○共働き世帯の増加や核家族、家庭環境の変化により3歳児からの幼稚園教育を実施、また、幼稚園教育終了後の午後の預かり、長期休業中の預かりなど預かり保育を実施し、子育て支援の充実に図れた。</p>												
事業費		R4（単位：千円）						R3（単位：千円）						
	5,276	国庫支出金		2,223		4,905	国庫支出金		2,223					
		起債					起債							
		その他		43			その他		45					
一般		3,010		一般			2,637							
課題	<p>●少子化時代であり、年々幼稚園へ入園する園児が減少している。保育が必要な場合は保育所へ入所できることや私立幼稚園が充実してきていることから預かり保育や幼稚園の在り方の検討をする必要がある。</p>													
事業の評価	意見	<p>・少子化による入園児の減少、私立幼稚園への流入など、職員、施設の効率的な活用の検討が必要である。</p>												
	R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A	
	R3	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3		14		A	
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：継続					

No.	13	事業名	育英資金貸付事業	担当	教育グループ
-----	----	-----	----------	----	--------

事業目的・内容	<p>鏡石町に住所を有する学生に経済的理由により修学困難と認められる者に対して、育英資金を無償で貸与し教育の機会均等を図る。</p> <p>◆貸与額：大学生50,000円（6年制大学は60,000円）を上限 高校生15,000円を上限</p> <p>◆入学準備金：30万～70万以内</p> <p>◆返還期間：修学した年数の2倍から3倍の期間で返済</p>
---------	--

事業実績・成果	<p>◎新規貸付者：0名 ※(R3:1名)</p> <p>◎継続貸付者：1名 貸付額 600千円</p> <p>◎返還者：11名 返還額 2,600千円</p> <p>○経済的理由により修学困難な学生に対し、教育の機会均等が図れている。</p>
---------	--

事業費	R4（単位：千円）				R3（単位：千円）			
	600	国庫支出金			1,200	国庫支出金		
		起債				起債		
		その他		600		その他		1,200
一般				一般				

課題	<p>●国などの給付型奨学金などの制度が充実してきており、町の制度利用の需要が少ないのが現状である。貸付条件の見直しを図ったところであるが、給付型にすると財源の確保が困難になることから、制度自体の在り方を検討していく必要がある。</p>
----	--

事業の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年々利用者が減少している中で、改善も図られているが、本来の目的である経済的理由を変更しない限り困難であり、大幅な変更も困難である。</li> <li>・限りある資金のなかで条件付き等で給付型への検討も必要である。</li> </ul>
-------	---

事業の評価	R4	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	2	合計	12	評価	B
	R3	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	2		12		B

方今 向後 性の	1. 重点化	②. 継続	3. 改善	4. 縮小	前年度の方向性：継続
----------------	--------	-------	-------	-------	------------

No.	14	事業名	社会教育関係団体支援事業	担当	生涯学習グループ
-----	----	-----	--------------	----	----------

事業目的・内容	<p>町の社会教育関係団体等の運営費の一部を補助することにより、各組織の人材育成・活性化を図り、心豊かな潤いのあるまちづくりを形成を図る。</p> <p>◆子ども会育成会連絡協議会 ◆PTA連絡協議会 ◆婦人会 ◆花いっぱい運動実行委員会 ◆青少年育成町民会議 ◆生涯学習文化協会</p>											
	事業実績・成果	<p>コロナ禍の中ではあったが、各団体において規模縮小など感染対策をとった中での各種事業を実施した。</p> <p>◎子ども会育成会連絡協議会 0千円（球技大会の中止） ◎PTA連絡協議会 90千円 ◎婦人会 90千円 ◎花いっぱい運動実行委員会 1,270千円 ◎青少年育成町民会議 900千円 ◎生涯学習文化協会 1,380千円（いきいき学級の休校）</p>										
事業費		R4（単位：千円）						R3（単位：千円）				
	3,730	国庫支出金					3,625	国庫支出金				
		起債						起債				
		その他						その他				
		一般		3,730				一般		3,625		
課題	<p>●生涯学習の推進と各種団体の自主性及び後方支援の在り方について、見直し・検討する必要がある。 ●外郭団体の維持及び適正な町補助金額の検証が必要である。</p>											
事業の評価	意見	<p>・子どもの数が減少し育成会の会員数に影響がある現状から、育成会のあり方自体を考える必要がある。 ・外郭団体自体の運営が困難となっており、社会教育の方法について検討が必要である。</p>										
	R4	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3	合計	13	評価
R3	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3	合計	13	評価	B
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：継続			

No.	15	事業名	家庭教育学級事業	担当	生涯学習グループ
-----	----	-----	----------	----	----------

事業目的・内容	<p>家庭における父母の役割についての学習や親同士の交流の機会を提供し、家庭の教育力の向上と活性化を図る。</p> <p>◆委託機関及び教育委員会が選定した家庭教育関係講師及び指導者により、家庭の教育向上に関する講演会等を実施</p>											
	事業実績・成果	<p>事業回数：1件 ※(R3:2回)</p> <p>①クリスマス演奏会(鏡石幼稚園)</p> <p>受講者数：69名  ○園児 44名  ○保護者 25名</p>										
事業費		R4(単位：千円)						R3(単位：千円)				
	15	国庫支出金					30	国庫支出金				
		起債						起債				
		その他						その他				
		一般		15				一般		30		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭教育力は、幼・保、小学生の家庭は家庭教育の基盤世代であるため、町内の幼児教育施設を中心として行っていく必要がある。</li> <li>●内容や日程など、保護者が参加しやすい工夫が必要である。</li> </ul>											
事業の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への啓発活動は継続する必要がある。</li> <li>・利用できる事業でありPRと予算の強化を求める。</li> <li>・親子で参加できることや興味を持てる教室を開催してほしい。</li> </ul>											
	R4	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3	合計	13	評価
R3	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3	合計	13	評価	B
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：継続			



No.	17	事業名	学校支援地域本部事業	担当	生涯学習グループ
-----	----	-----	------------	----	----------

事業目的・内容	<p>地域の人々が個々の特性を生かして教育活動を支援することで、地域住民の学習成果活用の機会拡充及び地域教育力・地域コミュニティーの再生を図り、地域が学校を支援する組織体制の構築を図る。 学校支援事業の効果的かつ円滑な取組を推進するために学校支援地域本部「学校応援団」を設置し、小中学校事業及び幼稚園への支援を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 学校の要請に基づく支援</li> <li>◆ ボランティアの募集、研修会の実施</li> <li>◆ 事業の普及啓発・広報（活動チラシ・HP・SNS）</li> </ul>												
	事業実績・成果	<p>◎コーディネーター：2名配置 ◎ボランティア回数：53回 ※（R3:46回） ◎ボランティア数：延べ164名 ※（R3:136名） ◎ボランティア登録数：60名 ※（R3:62名）</p> <p>①夏休みフリー寺子屋（小・中学校） ②家庭科裁縫、ミシン補助（小学校） ③将棋クラブ児童指導（一小） ④新一年生下校引率（二小） ⑤サッカー教室指導（幼稚園） ⑥入学式、卒業式等学校事業支援（駐車場誘導等） ※コロナ禍での行事減少や感染防止対策など制限の中での実施</p> <p>○事業を通して、学校と地域の交流や地域住民の生きがいづくりなどの成果を得ている。 ○平成20年から継続して実施している中で、支援に対する学校の理解、信頼、感謝が深まっている。</p>											
事業費		R4（単位：千円）						R3（単位：千円）					
	1,259	国庫支出金		835		921	国庫支出金		613				
起債				起債									
その他				その他									
一般		424		一般			308						
課題	<p>●ボランティアに登録していただいている方が高齢化しており、若い世代のボランティア登録を推進することが必要である。</p>												
事業の意見	<p>・幼稚園・学校との地域との連携を深めている支援活動である。 ・発足当時のボランティア募集について、再度見直し、新規加入の促進を図る必要がある。</p>												
	事業の評価	R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価
R3		必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	A	
方今 向後の 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：継続				

No.	18	事業名	生涯学習の振興 《各世代の学級・講座》				担当	生涯学習グループ					
事業目的・内容	<p>(1) 高齢者学級「いきいき学級」 高齢者が、話し合いや種々の学習・講座などをおして、健康を保ち生活を楽しみ、変化する生活環境に応じて、生きがいと新しい知識・技術を習得する。 ◆生涯学習文化協会連携事業</p> <p>(2) 女性学級「ジョイフルライフ講座」 向学心豊かな年代の女性を対象に、体験学習や社会参加を通して、生活の向上や自己研鑽を図り、ゆたかな人間性を養い、女性としての資質や能力を高め、明るく健全な家庭づくりに役立てる。 ◆生涯学習文化協会連携事業</p> <p>(3) 大人の講座「男性専科」 社会活動に消極的になりがちな年代の男性を対象に、学習の場を提供し、精神的・肉体的に明るくいいきとした、生きがいある新しい知識・技術を習得する。 ◆生涯学習文化協会連携事業</p> <p>(4) 青少年教室「アドベンチャークラブ」 子どもたちの社会性を養うことを目的に集団生活を通して、様々な体験により、子ども達の興味・関心の幅を広げるとともに、多くの自然に触れることにより環境に対する意識の向上を図る。 ◆対象：第一小学校、第二小学校の3学年から6学年</p>												
事業実績・成果	<p>コロナ禍により高齢者学級は休講となったが、各世代の学級・講座ともに感染対策をとった中で、活動プログラムを実施した。</p> <p>(1) 高齢者学級「いきいき学級」中止 ◆年5回のプログラムによる各種学習 0千円</p> <p>(2) 女性学級「ジョイフルライフ講座」 参加者数延べ78名 ※(R3:73名) ◆年6回のプログラムにより各種学習(生涯学習文化協会連携事業) 210千円</p> <p>(3) 大人の講座「男性専科」 参加者数延べ21名 ※(R3:20名) ◆年5回のプログラムにより各種学習(生涯学習文化協会連携事業) 98千円</p> <p>(4) 青少年教室「アドベンチャークラブ」 参加者数延べ28名 ※(R3:37名) ◆年5回のプログラムによる活動(一般会計:公民館費) 98千円</p>												
事業費	R4(単位:千円)					R3(単位:千円)							
	406	国庫支出金				343	国庫支出金						
		起債					起債						
		その他		146			その他		108				
一般		260		一般		235							
課題	●参加者数の減少及び受講者の高齢化や同一者、各世代の実情に沿ったプログラム作りが課題である。												
事業の評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加したいプログラム内容を考えていくべきである。</li> <li>・生涯学習の目玉事業であり、事業強化が必要である。</li> <li>・いきいき学級については、実態の応じた運営や内容を検討する必要がある。</li> </ul>											
	R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
	R3	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14		A
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性 : 継続				



No.	19	事業名	社会教育推進事業 《まちづくり講座・単科講座》				担当	生涯学習グループ					
事業目的・内容	<p>(1) まちづくり講座 個性あるまちづくりの実現に向け、平成28年度から開講し、まちづくりに積極的に参加する地域のリーダー的な人材を育成する。 ◆かがみいし防災塾（一般会計：公民館費）</p> <p>(2) 単科講座 一般町民を対象に、単一分野に特化した内容プログラムで開催し、生きがいや趣味づくりから文化の高揚を図る。 ◆生涯学習文化協会連携事業</p>												
事業実績・成果	<p>コロナ禍もあり、まちづくり講座は講師を選定することができず休講となったが、単科講座においては、感染対策をとった中で開催し、文化祭への展示発表を行うこともでき、少数人数の中でも充実した活動プログラムで行うことができた。</p> <p>(1) まちづくり講座 0千円 ◆ かがみいし防災塾</p> <p>(2) 単科講座 179千円 ◆初心者俳句教室 全6回のプログラム 受講者数5名 ◆手芸教室 全5回のプログラム 受講者数9名 ◆七宝焼き教室 年5回のプログラム 受講者数6名</p>												
事業費	R4（単位：千円）					R3（単位：千円）							
	179	国庫支出金				108	国庫支出金						
		起 債					起 債						
		そ の 他		179			そ の 他						
一 般				一 般		108							
課題	●現状に見合った事業内容の検討や、募集方法の工夫などが検討課題である。												
事業の 評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり講座の内容は検討すべきである。</li> <li>・認知度が低いのではないか。</li> <li>・幅広い募集方法を考えていかなければならない。</li> </ul>											
	R4	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	2	合計	12	評価	B
	R3	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	2	合計	12	評価	B
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性： 継続				

No.	20	事業名	図書館事業				担当	生涯学習グループ					
事業目的・内容	<p>社会教育の中心的施設であるという認識の下、幼児から高齢者までを対象にした自主事業を行い、地域住民に親しまれ、利用しやすい図書館の運営を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 図書の貸し出し</li> <li>◆ 造形教室の開催</li> <li>◆ 町立幼稚園・小中学校への移動図書館</li> <li>◆ 小学校でのお話会</li> <li>◆ 計画的な図書の購入</li> </ul>												
	事業実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 図書の貸出 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 延べ入館者数：62,870人 (R3:54,671人)</li> <li>・ 延べ貸出人数：12,191人 (R3:12,803人)</li> <li>・ 延べ貸出点数：45,476点 (R3:47,079点)</li> </ul> </li> <li>◎ 造形教室の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全4回 (講師：絵本・造形作家 菊地 清 先生)</li> </ul> </li> <li>◎ 町立幼稚園・小中学校への移動図書館 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一小：505人 942冊</li> <li>・ 二小：331人 398冊</li> <li>・ 中学：65人 119冊</li> </ul> </li> <li>◎ 小学校でのお話会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一小：4回 341人</li> <li>・ 二小：8回 (各クラス) 181人</li> </ul> </li> <li>◎ 計画的な図書等の購入 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書1,554冊、DVD21点</li> </ul> </li> </ul>											
事業費		R4 (単位：千円)					R3 (単位：千円)						
	35,651	国庫支出金		3,300		33,729	国庫支出金						
		起債					起債						
		その他					その他						
一般		32,351		一般			33,729						
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 読書通帳システムなど、図書に関する情報提供の充実や貸出事務におけるICTシステム導入が必要である。</li> <li>● 生涯学習の推進として、公民館及び生涯学習文化協会との連携が必要である。</li> </ul>												
事業の 評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館運営の充実を今後も求めていきたい。</li> <li>・ 幼児・小学生を対象とした図書に親しむことのできる活動を更に深めてほしい。</li> <li>・ 本の貸出状況やスマホで予約できるようなデジタル化を検討していく必要がある。</li> </ul>											
	R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A
	R3	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14		A
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性：継続				

No.	21	事業名	鏡石駅伝・ロードレース大会	担当	生涯学習グループ
-----	----	-----	---------------	----	----------

事業目的・内容	<p>前大会の「牧場の朝ロードレース大会」から駅伝の部創設と名称を変更し、唱歌「牧場の朝」のまち鏡石で、「走る」ことにより、健康づくりを推進し、体力の維持向上を目指し、町民が気軽に参加できる大会とするとともに、広く参加者を求め親睦を図る。</p> <p>◆ロードレースの部 18部門（1km～5km）          ◆駅伝の部 2部門          ・第1部（5区間21.6km） 中学生以上の男女混成チーム          ・第2部（3区間9.8km） オープン参加</p> <p>※町制施行60周年記念事業          ゲストラランナー 小森コーポレーション 山本竜也          （鏡石町出身／学法石川高／城西大学）</p>													
	事業実績・成果	<p>◎開催日時          令和4年11月6日（日）午前9時スタート</p> <p>◎参加者          ロードレースの部 エントリー数1,431人、当日完走者1,269人 ※（R3:974人）          駅伝の部 第1部 エントリー数 32チーム、当日出場チーム28チーム ※（R3:15チーム）          第2部 エントリー数 12チーム、当日出場チーム12チーム ※R4新規</p> <p>申込総数 1,627人（うち町内者1,056人）          ※新型コロナウイルスの影響により規模を縮小し開催（福島県内在住者のみ）</p> <p>○ 町内小学校は学校行事として児童全員の参加により、参加者は増加傾向にある。また、ロードレース部門においては、親子や学年毎など年齢にあった距離を走ることにより、走ることの楽しさなどを体感できている。</p> <p>○ 駅伝の部を3名で参加できるように新部門を設定（オープン参加）したことにより、参加しやすくなり参加チームの増加に繋がっている。</p>												
事業費		R4（単位：千円）						R3（単位：千円）						
	5,032	国庫支出金		起債		その他	2,032	3,104	国庫支出金		起債		その他	604
		一般		一般		一般	3,000		一般		一般		一般	2,500
課題	<p>●補助スタッフの人数拡大と運営方法の改善を図り、スムーズで効率的にするための工夫が必要である。</p> <p>●大会の特色と町の魅力をどうPRすることが重要である。</p> <p>●駅伝の部でオープン参加と両部門参加チームのレベルの差があるため、大会運営に苦慮する部分がある。</p>													
事業の評価	意見	<p>・毎回、多様な検討が重ねられ、大会の充実が図れている。</p> <p>・スポーツに親しみ、楽しむきっかけや場となっている事業である。</p>												
	R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A	
R3	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価	A		
方今 向後 性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性： 継続					

No.	22	事業名	子ども会対抗親善スポーツ大会	担当	生涯学習グループ
-----	----	-----	----------------	----	----------

事業目的・内容	<p>【球技大会】 夏季休業中における児童・生徒の生活指導の一環として、体力の向上と青少年の健全育成を図ることを目的として、公民館共催のもと子ども育成会対抗の球技大会を開催する。</p> <p>【子育連】 町内における子ども会育成会相互の連絡調整を密にすることにより、子どもの健全育成についての共通理解を深め、あわせて家庭教育並びに社会教育（青少年教育）の育成に資することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆子ども会育成会連絡協議会への連携及び支援</li> <li>◆子ども会対抗親善球技大会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進員、かがみいしスポーツクラブとの連携</li> </ul> </li> </ul>												
	事業実績・成果	<p>新型コロナウイルス感染症の影感染拡大防止のため、単位育成会との協議の結果、感染リスクを考慮し、開催中止（3年連続）となった。</p>											
事業費	R4（単位：千円）						R3（単位：千円）						
	0	国庫支出金					0	国庫支出金					
		起債						起債					
		その他						その他					
		一般						一般					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども会の中心的事業として長年実施してきたが、少子化により子ども会会員数が減少していることもあり、単位子ども会自体が成り立たないなど、事業運営に大きく影響している。</li> <li>●単位会長と実施内容を協議し、関係団体と連携し、工夫しながら参加しやすい大会となるようにする必要がある。</li> <li>●子どもの個人活動の選択肢が増加していることもあり、子ども会育成会自体がどうあるべきか見つめ直す時代である。</li> </ul>												
事業の評価	意見	/											
	R4	必要性	—	有効性	—	効率性	—	達成度	—	合計	—	評価	—
	R3	必要性	—	有効性	—	効率性	—	達成度	—	合計	—	評価	—
方今向後性の	1. 重点化	②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性： 継続					

No.	23	事業名	総合型地域スポーツクラブ支援事業	担当	生涯学習グループ
-----	----	-----	------------------	----	----------

事業目的・内容	<p>あらゆる年度の町民が個々のライフスタイルに応じて気軽にスポーツを楽しむことができる環境を整備し、健康の維持・増進を目指す。 さらに、スポーツの一層の振興と普及を図ることで、青少年の健全育成や地域コミュニティの再生、豊かな高齢化社会の実現など、地域社会の確率に資する。</p> <p>NPO法人かがみいしスポーツクラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆スクール活動</li> <li>◆サークル活動</li> <li>◆各種教室</li> </ul>												
	事業実績・成果	<p>◎会員数：835名、賛助会員91件 ※(R3:760名)</p> <p>◎スクール活動(17団体) ※(R3:15)</p> <p>◎サークル活動(21種目) ※(R3:21)</p> <p>◎各種教室・イベント数 31種 ※(R3:65)</p> <p>◎理事会(12回)</p> <p>○ 町民の健康増進や青少年の健全育成などに大きく寄与できている。</p> <p>○ 町民の生涯スポーツ活動など町民が気軽に参加しやすい教室を開催し、参加者の増加に繋がっている。</p>											
事業費		R4(単位:千円)						R3(単位:千円)					
	3,400	国庫支出金		起債		その他	3,400	3,400	国庫支出金		起債		その他
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スポーツ振興及び健康増進に寄与できる活動や自立に向けた組織体制づくりを進める必要がある。</li> <li>●体育施設の指定管理など、経営自立化のため支援協議をスポーツクラブと検討していく必要がある。</li> </ul>												
	事業の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各世代の町民がスポーツに慣れ親しみ、健康の保持増進に繋がっている。</li> <li>・自立に向けて人員削減や組織の在り方を検討してほしい。</li> </ul>											
事業の評価		R4	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	評価
	R3	必要性	4	有効性	4	効率性	3	達成度	3	合計	14	A	
方今向後性の	1. 重点化		②. 継続		3. 改善		4. 縮小		前年度の方向性 : 継続				

No.	24	事業名	体育施設管理運営事業	担当	生涯学習グループ
-----	----	-----	------------	----	----------

事業目的・内容	<p>鳥見山理上競技場内の管理事務所を中心に、総合的な調整と維持管理を行い、町内社会体育施設の有効活用を図る。また、町民プールにおいては、指定管理者による管理運営を行い、民間事業者のノウハウを活用したサービス向上と経費削減を図る。</p> <p>◆運営施設</p> <p>①鳥見山陸上競技場 ②鳥見山多目的広場 ③鳥見山体育館 ④鳥見山野球場 ⑤鳥見山テニスコート ⑥町民プールすいすい（指定管理） ⑦構造改善センター</p>
---------	---

事業実績・成果	<p>◎施設数：7施設 利用者数：158,789人 ※(R3:150,308)</p> <p>(1) 直営管理・一部委託</p> <p>①鳥見山陸上競技場 24,619人 (R3:23,585人) ②鳥見山多目的広場 20,217人 (R3:17,778人) ③鳥見山体育館 21,995人 (R3:10,922人) ④鳥見山野球場 3,469人 (R3:3,285人) ⑤鳥見山テニスコート 9,321人 (R3:13,977人) ⑥構造改善センター 13,867人 (R3:21,435人)</p> <p>(2) 指定管理制度</p> <p>①町民プール「すいすい」 65,301人 (R3:59,175人)</p>
---------	--

事業費	R4 (単位：千円)			R3 (単位：千円)		
	105,041	国庫支出金	9,240	99,284	国庫支出金	
		起債			起債	
		その他			その他	
	一般	95,801		一般	99,284	

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●管理体制及び人員の確保及び指定管理者制度を検討する必要がある。</li> <li>●老朽化施設についての改修は、公園施設長寿命化計画に沿って関係機関と連携を図る必要がある。</li> <li>●施設使用料の見直しを図る必要がある。</li> </ul>
----	--

事業の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育施設の管理と施設の有効な活用には適切な組織への外部委託が必要になってくる。</li> <li>・経費と活用のバランスは更に研究が必要である。</li> </ul>
-------	---

事業の評価	R4	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3	合計	13	評価	B
	R3	必要性	4	有効性	3	効率性	3	達成度	3	合計	13	評価	B

方今向後の	1. 重点化	②. 継続	3. 改善	4. 縮小	前年度の方向性：継続
-------	--------	-------	-------	-------	------------